

専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議

第2回 議事次第

令和5年10月16日（月）

10時30分～

博多工業高等学校図書室

〔議題〕

- 今後の方向性について

〔資料〕

- 資料1： 第1回会議の議事要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
- 資料2： 福岡女子高校、博多工業高校の現状と課題について・・・・・・・・ p.5
- 資料3： 市立高校の生徒を対象としたアンケート調査結果・・・・・・・・ p.9
- 資料4： 全国の女子校、共学化の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.26
- 資料5： 社会に開かれた教育課程、3年間に限らない教育課程・・・・・・ p.36

<別紙>

- 参考資料1：福岡市の施策の方向性について・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
- 参考資料2：インクルーシブ教育について・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
- 参考資料3：単位交換、セメスター制について（市立高校の交流状況）・・ p.4
- 参考資料4：福翔・福岡西陵高校の取組状況について・・・・・・・・・・ p.5

第 1 回会議の議事要旨

（高等学校を取り巻く環境の変化）

- 少子化の進展によって、福岡県立高校では平成 15 年度から山間地を中心に統合・再編が行われているが、福岡地区では、これまで統合・再編はなく、学校単独の学科再編等を行っている。今後も、福岡地区の生徒数は、微増傾向にあるものの、令和 13 年頃からは減少に転じる見込み。
- そのため、将来的な人口減少や社会経済情勢の変化等を見据えながら、学科や学校のあり方などについて検討を進めていくべき。
- 収入ベースの制限はあるものの高校授業料実質無償化の影響により、公立高校のメリットが失われつつあることから、魅力を向上させる取組が必要。
- 私立の場合、経営者と教員の距離が近く、様々な施策を素早い判断・決断のもと取り組んでいる。公立も今後の運営上、そういったスピード感が必要となってくる。
- 技術革新が進み、デジタルが普及していく中、社会を支えるインフラとして IT・デジタル人材が今後、大量に必要となってくる。
- 社会課題などに対して、IT・デジタルをツールとして使いこなしていく力が必要で、課題の本質を問う力、理解する力を養いながら、課題解決に持っていく学びが重要となってくる。産業界と連携しながら、企業の力を活用するのも一つの手段ではないか。
- 今後、情報活用能力やデジタルスキルが重要となってくるが、女性活躍や課題解決型の創造的な学び、IT・クリエイティブ人材の育成に重視した取組が必要。

（市立高等学校の現状・課題等）

- 福岡市が高校生を育成する理由が必要で、市の施策や課題と連動しながら、社会（地域）課題解決能力の育成やリーダーシップを養う学びが重要となってくる。
- 様々な課題やいろいろな人がいること、社会の多様性を知ることが重要であり、例えば、学校間での合同学習など、市立４校の連携や交流を強化していくべき。
- 市立学校の英語教育として、小・中学校での英語文化に触れる学びと、各市立高校のカリキュラムが連携するような戦略的な取組みが必要ではないか。
- 教員の負担を軽減していくため、ＩＴ・デジタルの活用が必要。また、生徒によりよい教育を提供するためにも、教員のメディアリテラシー・探究学習能力の育成が重要。
- なぜ市立高校を選んだのかなど、生徒のニーズを把握し、市立の強みを分析する必要がある。また、学校の特色や、その学校に進学すると、どこの大学に進学できるとか、あの企業に就職できるとか、そのなれる何かを打ち出し、発信していくことが重要。
- 不登校の生徒が増えており、通信制を選択する生徒も増加しているため、そういった視点を持つことも大切ではないか。
- 福翔高校は平成１２年に総合学科に改編、福岡西陵高校は ICT 活用実践を全国に先駆けて取り組むなど評価でき、学科改編等の抜本的な見直しの必要性はないと考えるが、西陵高校の志願倍率低下は課題。
- 専門分野の学びは今後も必要であるが、社会経済状況の変化に対応できるよう、専門学科の魅力化を図ることが喫緊の課題。

（専門学科を有する市立高校）

- 建築業界などでは人材が不足しており、専門高校の必要性は高い。労働力不足の観点からも専門分野の学びは、さらに社会から求められてくるのではないかな。
- 3年間、同じ専門学科を学ぶこと、同じクラスメイトと過ごすことに不安感を持つ中学生がいるため、入学後の学科変更（学びの選択制）や定員の見直し等の検討が必要。
- 福岡女子高校の共学化も一つの検討項目であるが、共学化を目指すのであれば、抜本的な魅力化を図るべきで、単に受験者の母数を増やすだけではいけない。
- 「3年間に限らない学び」について、平成28年度に法改正が行われており、専攻科（高校3年間にプラス2年の5年生課程）の卒業生が大学へ進学できるようになった。
- 工業高校3年間だけでは専門性の狭い学びとなるため、専攻科などで、これから必要とされる分野横断的な人材が福岡市で育成され、そこから大学3年次に編入ができるようであれば、価値のある取組みで、大事な検討項目ではないかな。
- 共学化、「工科」高校の検討、学科改編や高大連携など新たな取組みを行うことで、生徒にこれまでになかった選択肢を提供できるようになる。生徒にどのような選択肢を生み出せていけるのかという観点での議論が必要。
- 福岡市の特色や課題を踏まえた上で市職員を目指すことができる学びや、市の中小製造業に資する学生という視点では、英語に強いエンジニアの育成が今後望まれるのではないかな。
- 福岡市には、いろいろな技術やテクノロジーを教える大学や専門学校等があるため、そこと連携し、博多工業高校で展開していくという可能性があるのではないかな。

○福岡市の特色、地域課題と接続するような学びが重要となる。例えば、スタートアップの活用や企業や大学等との連携など、ものづくりにとどまらず、知識・技術を課題解決のためにどう活用するのか、福岡市立ならではの学びが必要ではないか。

福岡女子高校、博多工業高校の現状と課題について

【福岡女子高校】

○多くの学科で、近年、募集定員割れが発生しており、各学科の教育内容が中学生や社会のニーズに合わなくなりつつある。

〔福岡女子高校の志願倍率の推移〕

	H30	R1	R2	R3	R4
服飾デザイン科	1.00	0.83	0.80	0.95	1.00
食物調理科	1.10	1.13	1.28	0.93	1.23
保育福祉科	1.13	1.13	1.13	1.03	0.95
生活情報科	1.08	0.90	0.98	0.98	0.98
国際教養科	0.98	1.08	0.98	0.80	0.73
普通科	1.14	0.98	1.26	1.10	1.04

○各学科に合わせた資格取得等を推進しているが、必ずしも、その後の進路に結びついていない。専門学科の学びに沿った進路選択率は61%（R4）。

○卒業後、就職する生徒は少なく、生徒の大半が進学している状況にあるため、進学するための学力が備わる学びも提供していくことが必要。

〔福岡女子高校 専門学科卒業生の進路（R4）〕

	卒業者	大学	短大	専門学校	就職	その他
服飾デザイン科	27	1	1	16	5	4
食物調理科	38	8	6	14	9	1
保育福祉科	33	4	21	8	0	0
生活情報科	39	9	5	17	6	2
国際教養科	35	19	0	7	1	8
計	172	41 23.7%	33 19.1%	62 36.0%	21 12.2%	15 8.7%

【博多工業高校】

○生徒の 64%が主にもものづくり系の企業に就職をしている（就職内定率 100%）。

また、進学を希望する生徒が 36%と近年、微増傾向にある。

○就職者のうち約半数が、市内企業に就職しており、1 割が福岡市を除く県内企業、
4 割が県外の企業に就職している。

〔博多工業高校 卒業生の進路（R 4）〕

		就職			進学			その他	計
		市内	県内	県外	大学	短大	専門学校		
卒業生	172 63.9%	87	18	67	96 35.7%	22	6	68	1 0.4%

○市内の産業構造も変化してきており、学科によっては、教育内容が社会のニーズ
に合わなくなりつつある。

〔福岡市内の産業別事業者数・従業者数（経済センサス参照）〕

	H13	R3
情報通信業	35,433人	54,119人

〔博多工業高校の志願倍率の推移〕

		H30	R1	R2	R3	R4
博多工業高校	機械科	1.55	1.14	1.01	1.30	1.05
	インテリア科	1.73	1.33	1.23	1.05	1.40
	建築科	1.60	1.28	1.18	1.18	1.48
	画像工学科	1.28	1.35	1.08	1.38	1.43
	自動車工学科	1.23	1.13	0.85	1.15	1.13
	電子情報科	1.45	1.30	1.43	1.38	1.40

○令和4年5月「未来人材ビジョン」（経済産業省）では、将来の労働需要について「情報処理・通信技術者」や「開発・製造技術者」の需要が大幅に増加することが見込まれる。これらの変化も踏まえ、教育内容を検討していく必要がある。

〔2050年における労働需要の変化（R4.5「未来人材ビジョン」参照）〕

	労働需要 変化	
職種	情報処理・通信技術者	20% 増加
	開発・製造技術者	11% 増加

市立高校の生徒を対象としたアンケート調査結果

- 1 アンケート対象：福岡市立 4 校の全生徒（1～3 年生）
- 2 実施方法：Google フォームによる回答
- 3 調査日：令和 5 年 9 月 2 5 日(月)から 1 0 月 6 日(金)まで
- 4 アンケート回答状況

市立 4 校	1年	2年	3年	回答人数
回答人数	1, 128	991	1, 047	3, 166
在籍数	1, 232	1, 196	1, 195	3, 623
回答率	91. 6%	82. 9%	87. 6%	87. 4%

〔学校別〕

博多工業	1年	2年	3年	回答人数	在籍数	回答率
機械科	71	45	57	173	239	72. 4%
インテリア科	38	37	34	109	116	94. 0%
建築科	35	34	28	97	119	81. 5%
画像工学科	35	29	35	99	118	83. 9%
自動車工学科	38	18	33	89	116	76. 7%
電子情報科	40	19	34	93	120	77. 5%
計	257	182	221	660		
在籍数	279	277	272	828		
回答率	92. 1%	65. 7%	81. 3%	79. 7%		

福岡女子	1年	2年	3年	回答人数	在籍数	回答率
服飾デザイン科	39	35	28	102	110	92. 7%
食物調理科	36	31	36	103	114	90. 4%
保育福祉科	34	36	36	106	115	92. 2%
生活情報科	36	33	35	104	113	92. 0%
国際教養科	24	22	33	79	102	77. 5%
普通科	111	107	95	313	351	89. 2%
計	280	264	263	807		
在籍数	312	294	299	905		
回答率	89. 7%	89. 8%	88. 0%	89. 2%		

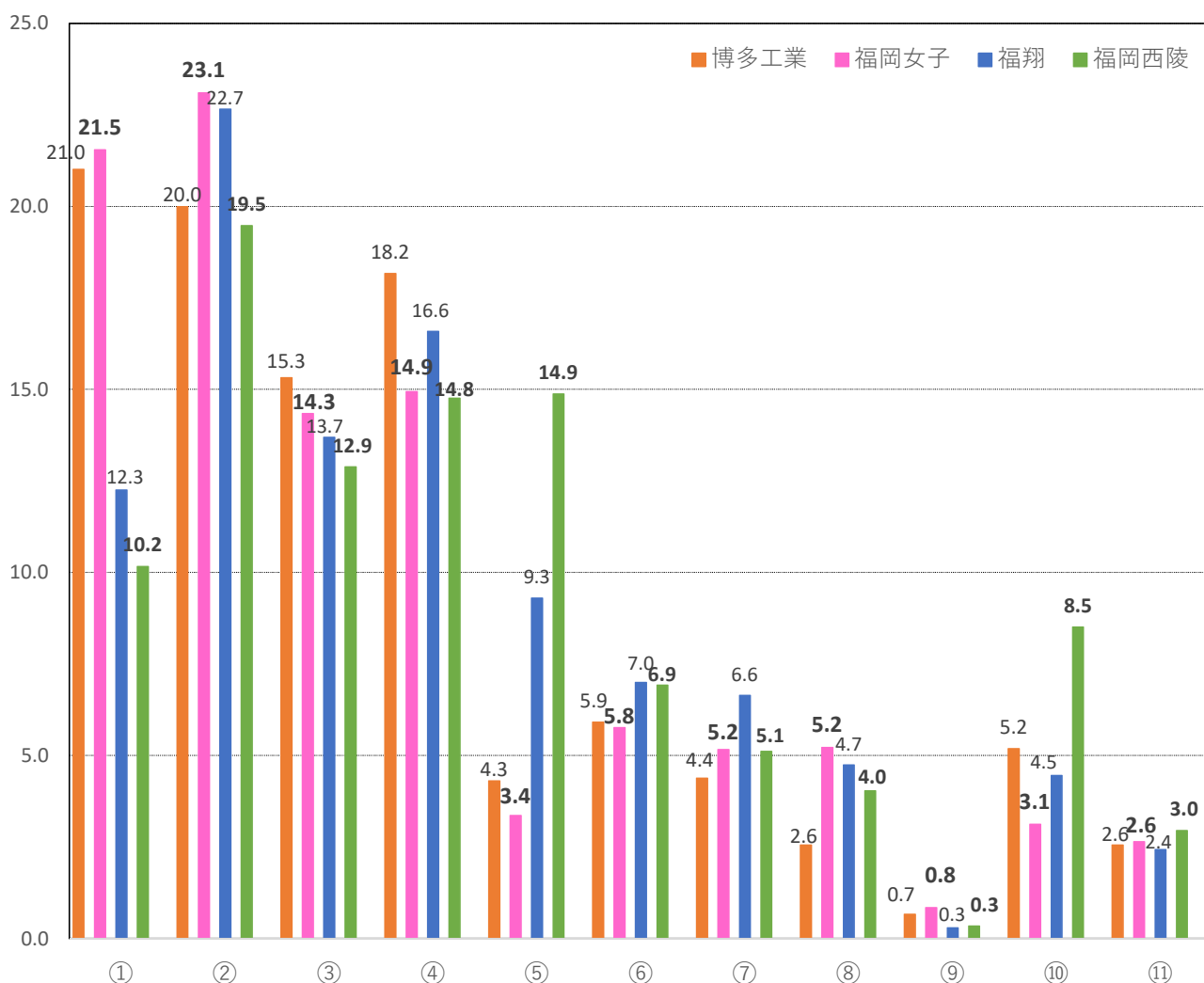
福翔	1年	2年	3年	回答人数
総合学科	294	260	262	816
在籍数	324	316	314	954
回答率	90. 7%	82. 3%	83. 4%	85. 5%

福岡西陵	1年	2年	3年	回答人数
普通科	298	286	299	883
在籍数	317	309	310	936
回答率	94. 0%	92. 6%	96. 5%	94. 3%

問1 あなたが、高校を選ぶときに参考にした情報は何か。(3つまで選択)

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 高校のホームページ	21.0	21.5	12.3	10.2
② 高校のオープンスクールや説明会	20.0	23.1	22.7	19.5
③ 中学校の先生からの意見	15.3	14.3	13.7	12.9
④ 保護者からの意見	18.2	14.9	16.6	14.8
⑤ 塾の先生からの意見	4.3	3.4	9.3	14.9
⑥ 友人から意見	5.9	5.8	7.0	6.9
⑦ 先輩からの意見	4.4	5.2	6.6	5.1
⑧ インターネットのウェブサイト（高校のHP以外）	2.6	5.2	4.7	4.0
⑨ 新聞・テレビ・情報誌	0.7	0.8	0.3	0.3
⑩ 特にない	5.2	3.1	4.5	8.5
⑪ その他	2.6	2.6	2.4	3.0



調査結果の概要

- 市立4校の生徒全体として「高校のオープンスクールや説明会」「保護者からの意見」と回答した割合が高い
- 博多工業高校、福岡女子高校の生徒については、「高校のホームページ」も参考にした生徒も多い。
- 福翔高校、西陵高校に在籍する生徒については、「中学校の先生からの意見」「塾の先生からの意見」を参考にした生徒も多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- オープンスクールで先輩が優しくて体験内容が楽しかった。
- インテリアデザイナーを目指しており、それに直結している学校探して博多工業高校のサイトを見た。
- 自分は物作りの道へ進みたかったので、設備が充実している博多工業で技術を学ぼうと思いこの学校を選んだ。

（福岡女子）

- 資格取得に興味を持った。
- コースに応じたカリキュラムで決めた。
- 自分の学力的にいける学校を探した。

（福翔）

- 総合学科という教科選択に魅力があった。
- 商業を勉強しとくと将来に役立つと親から聞いた。
- 自分に合った学力の学校を家族や先輩、先生などに聞いて探した。

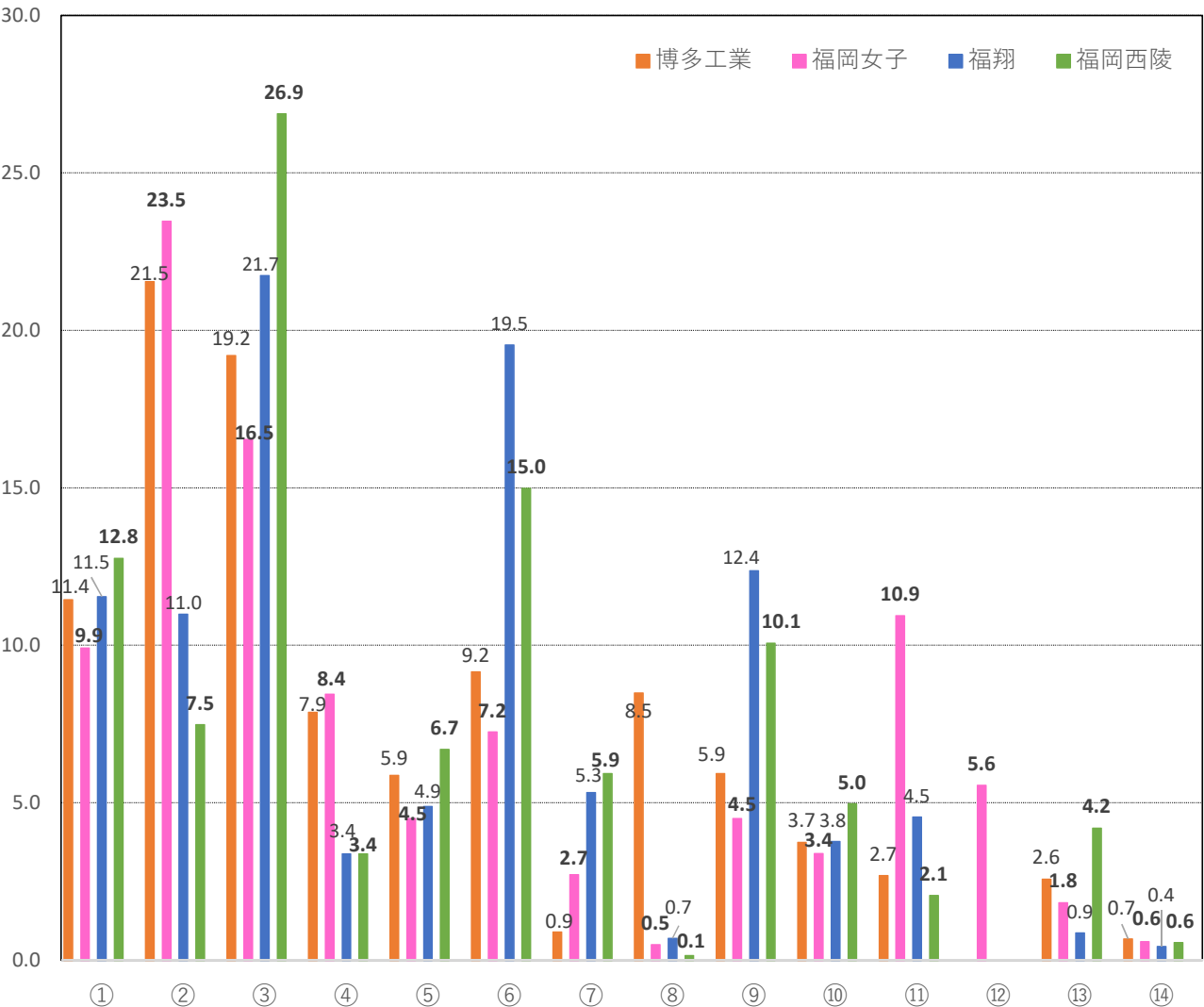
（福岡西陵）

- 高校のパンフレットに魅力を感じた。
- 自分の偏差値と合っていた。
- 姉が通っていて楽しそうにしていたことと、家から近かったこと。

問2 あなたは、高校を決める際、どのような点を重視しましたか。(4つまで選択)

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 学校のイメージ	11.4	9.9	11.5	12.8
② 設置されている学科・コース・教育内容	21.5	23.5	11.0	7.5
③ 自分の学力・能力・適性	19.2	16.5	21.7	26.9
④ 施設・設備、周囲の環境	7.9	8.4	3.4	3.4
⑤ 保護者、中学校、塾の先生などの助言	5.9	4.5	4.9	6.7
⑥ 通学時間	9.2	7.2	19.5	15.0
⑦ 大学などへの進学実績	0.9	2.7	5.3	5.9
⑧ 企業、公務員などへの就職実績	8.5	0.5	0.7	0.1
⑨ 部活動の状況	5.9	4.5	12.4	10.1
⑩ 学費	3.7	3.4	3.8	5.0
⑪ 制服	2.7	10.9	4.5	2.1
⑫ 女子高校 ※福岡女子高生徒のみ回答	-	5.6	-	-
⑬ 特にない	2.6	1.8	0.9	4.2
⑭ その他	0.7	0.6	0.4	0.6



調査結果の概要

- 市立4校の生徒全体として「自分の学力・能力・適性」を重視したという生徒の回答割合が高い。
- 博多工業高校、福岡女子高校に在籍する生徒については、「設置されている学科・コース・教育内容」を重視したという回答割合が高い。
- 福翔高校、西陵高校に在籍する生徒については、「通学時間」を重視したという回答割合が高い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- どんなことが学べるのか。目指す進路に対する学びを得ることができるのかを考え決めた。
- 市立で就職できる高校であることを条件として考えていたので授業内容や就職実績を見ながら考えた。
- 検定や資格がたくさん取れ、サポートもしっかりしている。

（福岡女子）

- 調理師免許を取れるのが良いと思った。
- 公立で保育を勉強できるところは福女しかなかった。
- 第二外国語を学べること、国際交流の機会が多いことに魅力を感じた。

（福翔）

- 総合学科が自分に適していると思った。
- 距離が近く、グローバルコースで商業の資格を取れると聞いたので選んだ。
- 部活動と勉強を文武両道で頑張れると聞いたので、その意見を参考にした。

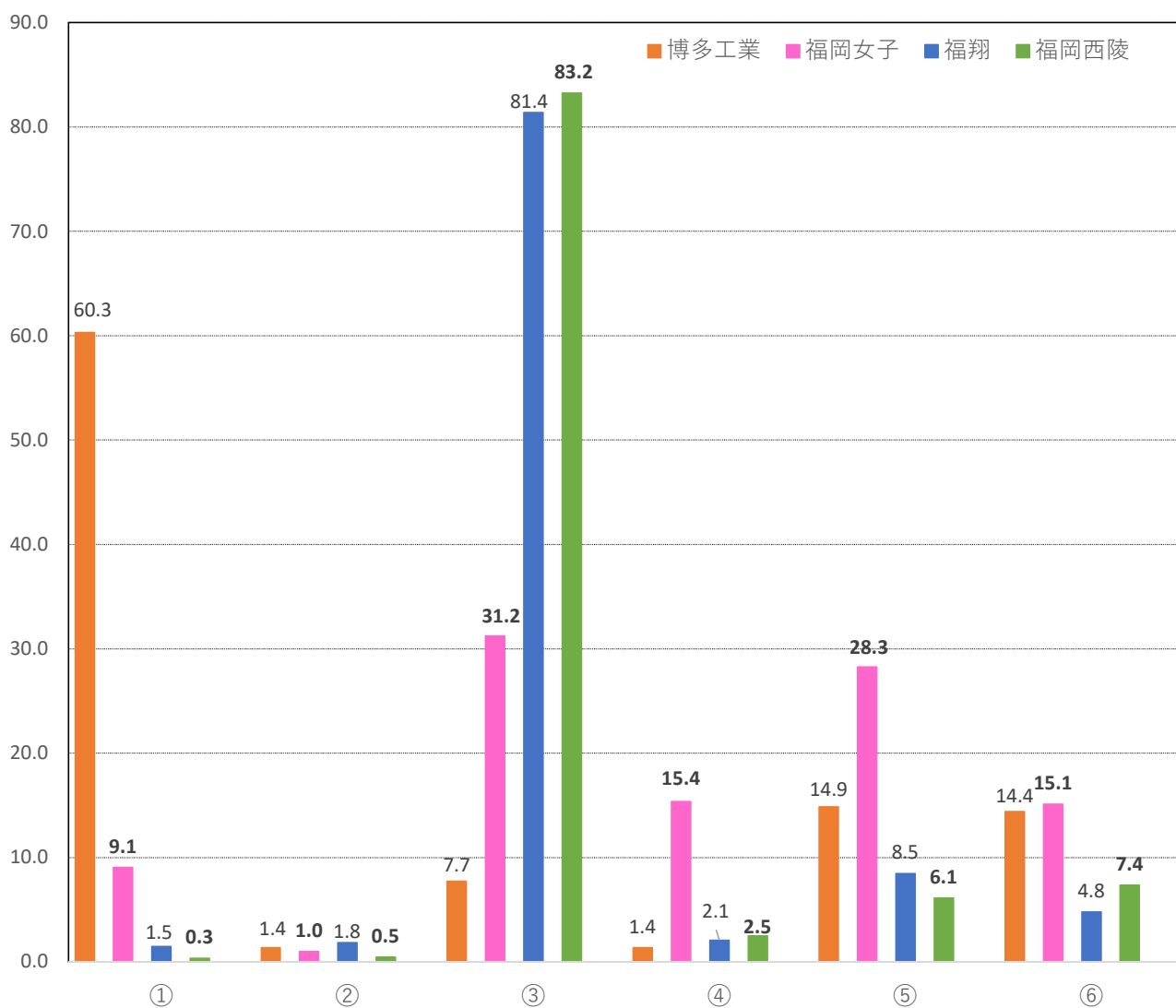
（福岡西陵）

- 先生や生徒の雰囲気も重視した。
- 国際交流や海外留学ができる学校に行きたかった。
- 総探が他の学校にはなかった活動だったので魅力を感じた。

問3 高校卒業後、希望する進路について教えてください。

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 就職（企業）	60.3	9.1	1.5	0.3
② 就職（公務員）	1.4	1.0	1.8	0.5
③ 進学（大学）	7.7	31.2	81.4	83.2
④ 進学（短大）	1.4	15.4	2.1	2.5
⑤ 進学（専門学校）	14.9	28.3	8.5	6.1
⑥ その他、未定	14.4	15.1	4.8	7.4



調査結果の概要

○博多工業高校に在籍する生徒の約60%が就職、24%が進学を希望している。進学希望の割合は、大学が8%、短期大学は1%、専門学校は15%となっている。

○福岡女子高校に在籍する生徒の74%は、進学を希望しており、内訳としては4年制大学が31%、短期大学は15%、専門学校は28%となっている。就職希望者の割合は、10%となっている。

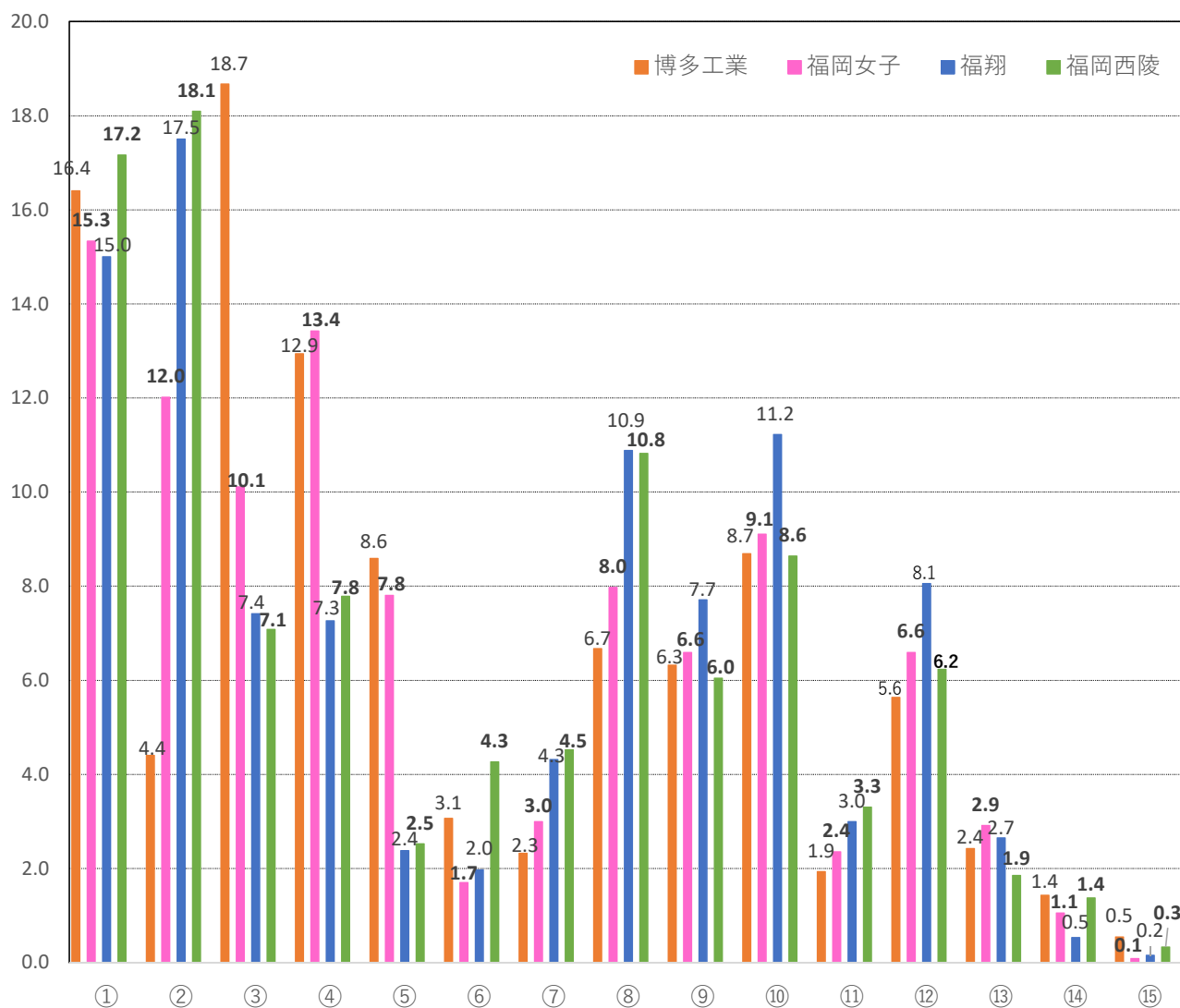
○福翔高校に在籍する生徒の92%は、進学を希望している。内訳としては4年制大学が81%、短期大学は2%、専門学校は9%となっている。就職希望者の割合は、3%となっている。

○福岡西陵高校に在籍する生徒の92%は、進学を希望している。内訳としては4年制大学が83%、短期大学は3%、専門学校は6%となっている。就職希望者の割合は、1%となっている。

問4 あなたが、高校生として身につけたい(身につけた)ことは何ですか。(4つまで選択)

単位:%

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 基本的な学力	16.4	15.3	15.0	17.2
② 進学に対応できる学力	4.4	12.0	17.5	18.1
③ 就職に活かすことができる知識や技能	18.7	10.1	7.4	7.1
④ 自分が興味のある分野の専門的な知識・技能	12.9	13.4	7.3	7.8
⑤ 専門分野や語学に関して取得できる資格(検定など)	8.6	7.8	2.4	2.5
⑥ ITやAIなど情報化社会に対応できる力	3.1	1.7	2.0	4.3
⑦ 国際社会で活躍できるコミュニケーション能力	2.3	3.0	4.3	4.5
⑧ 自ら考え、判断し、問題を解決できる力	6.7	8.0	10.9	10.8
⑨ 何事にも挑戦するチャレンジ精神	6.3	6.6	7.7	6.0
⑩ 社会人として必要なマナーや礼儀、責任感	8.7	9.1	11.2	8.6
⑪ チームを課題解決に導くリーダーシップ	1.9	2.4	3.0	3.3
⑫ 他人を思いやり、いのちを大切にする心	5.6	6.6	8.1	6.2
⑬ 健康に生きるための知識や生活習慣	2.4	2.9	2.7	1.9
⑭ 特にない	1.4	1.1	0.5	1.4
⑮ その他	0.5	0.1	0.2	0.3



調査結果の概要

- 市立4校全体として多くの生徒が「基本的な学力」と回答している。
- 進学希望者の割合が高い福翔高校、福岡女子高校、福岡西陵高校では「進学に対応できる学力」と回答する生徒が多い。
- 就職希望者の割合が高い博多工業校では「就職に活かすことができる知識や技能」と回答する生徒が多い。
- 「自ら考え、判断し、問題を解決できる力」は、福翔高校、福岡西陵高校の生徒に回答が多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 専門的な資格を沢山取りたい。
- 情報化に対応できる知識や技術、社会人になったとき必須な知識、礼儀などを身につけたい。
- コミュニケーション能力を強化したい。

（福岡女子）

- 社会に出て必要なパソコンの知識やビジネスマナーの知識を身につけることができた。
- なりたい自分や将来の自分のことを考え、たくさん行動しチャレンジしたい。
- 英語に焦点を当てつつ、国連ハビタット等との交流を通して世界の社会問題について学ぶことができた。

（福翔）

- 大学進学に対応できるような学力を身につけたい。
- 社会人になっていくための基礎を学び、しっかりとした人になりたい。
- 学業面での成長を大きな目標としている。

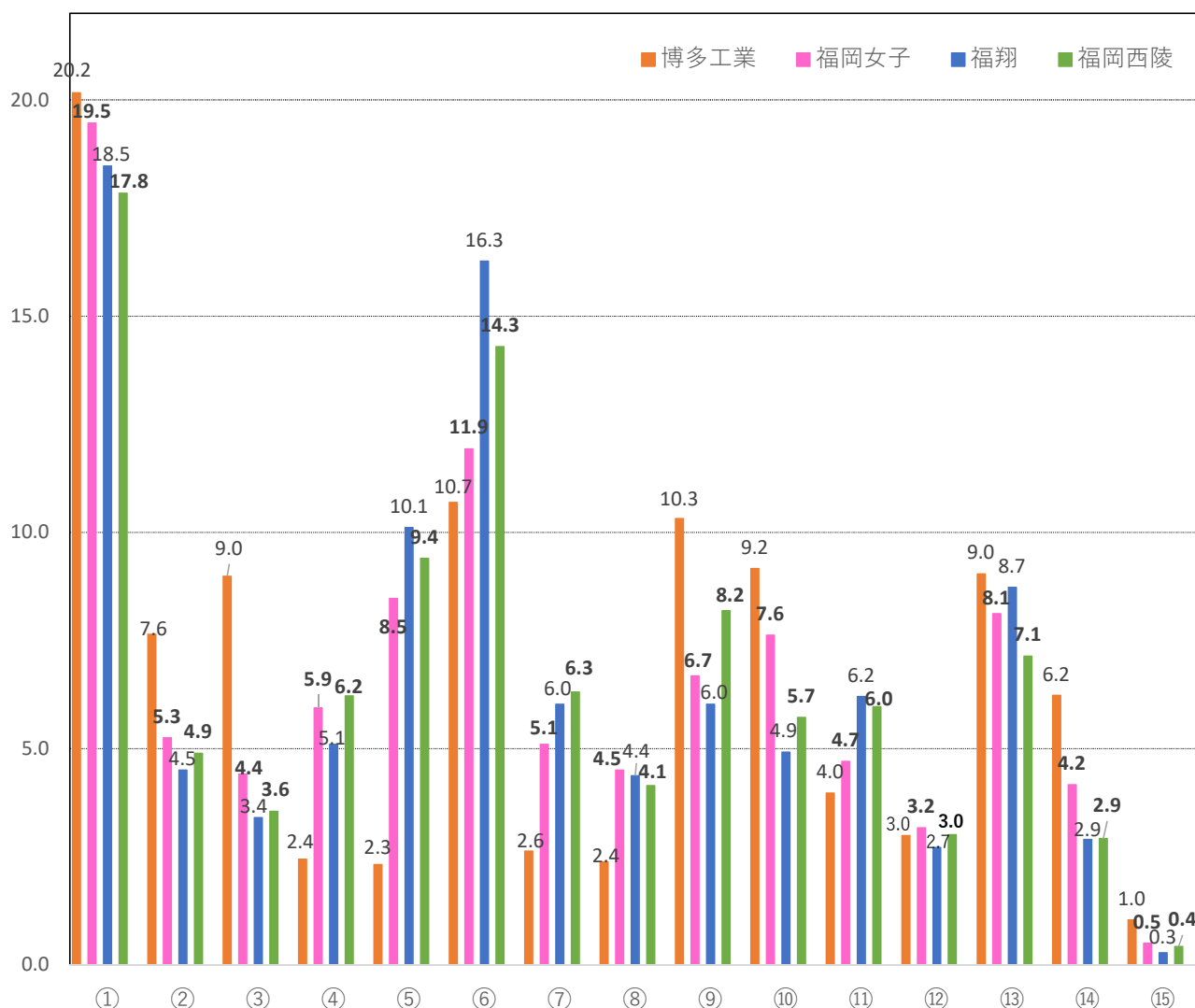
（福岡西陵）

- 高校でいろんなことを経験して、社会でそれを活用していきたい。
- 自分の意見を人に表現できるような人になりたい。
- 総合的な探究の時間で、チーム全体で主体的に考え行動していく力が、身についた。

問5 自分の高校の授業において、もっと良くしていくためには何が必要だと思いますか。(4つまで選択)

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする	20.2	19.5	18.5	17.8
② 教科(学科)の枠を超えた総合的な学習を行う	7.6	5.3	4.5	4.9
③ 企業などから講師を招いて、職業選択に役立つような授業を行う	9.0	4.4	3.4	3.6
④ 大学などから講師を招いて、進路選択に役立つような授業を行う	2.4	5.9	5.1	6.2
⑤ 大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる	2.3	8.5	10.1	9.4
⑥ 理解が不十分な教科・科目の内容を、学び直すことができる機会を多くつくる	10.7	11.9	16.3	14.3
⑦ 異文化体験や外国人との交流などの機会を充実させる	2.6	5.1	6.0	6.3
⑧ 少人数を対象とする指導形態を取り入れる	2.4	4.5	4.4	4.1
⑨ ICT機器(タブレット)等を積極的に活用した授業を充実させる	10.3	6.7	6.0	8.2
⑩ 実習や体験学習(インターンシップなど)を多く取り入れる	9.2	7.6	4.9	5.7
⑪ 個人の学習に対する理解の程度(習熟度)に即した指導形態をとる	4.0	4.7	6.2	6.0
⑫ プレゼンテーションなど研究発表の場を多く取り入れる	3.0	3.2	2.7	3.0
⑬ グループ学習などの対話的な学びの機会を増やす	9.0	8.1	8.7	7.1
⑭ 特にない	6.2	4.2	2.9	2.9
⑮ その他	1.0	0.5	0.3	0.4



調査結果の概要

- 市立4校とも「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする」と回答する生徒の割合が最も高く、次いで「理解が不十分な教科・科目の内容を、学び直すことができる機会を多くつくる」となっている。
- 進学希望者の割合が高い福翔高校、福岡女子高校、福岡西陵高校では「大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる」と回答する生徒も多い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 基礎的な科目の授業内容のレベルを上げてほしい。（英語など）
- 機械を学びたいが、コンピュータも学びたい。
- 経済や経営についても詳しく学びたい。

（福岡女子）

- コースに応じた学習授業を、基礎学習にプラスして行う事が必要だと思う。
- カリキュラムが専門分野に特化しているのはすごくいいと思うけど、大学入試対策の授業なども取り入れて欲しい。
- オンラインなどを通して国際交流を増やすなど、もっとICTを活用すべき。

（福翔）

- ボランティアや国際交流のイベントなどの情報が必要と思う。
- いろいろな職業の内容を学ぶ機会や、実際に話が聞ける機会などがあったらいいと思う。
- ICTなどをもっと使うことによって効率よく授業ができると考える。

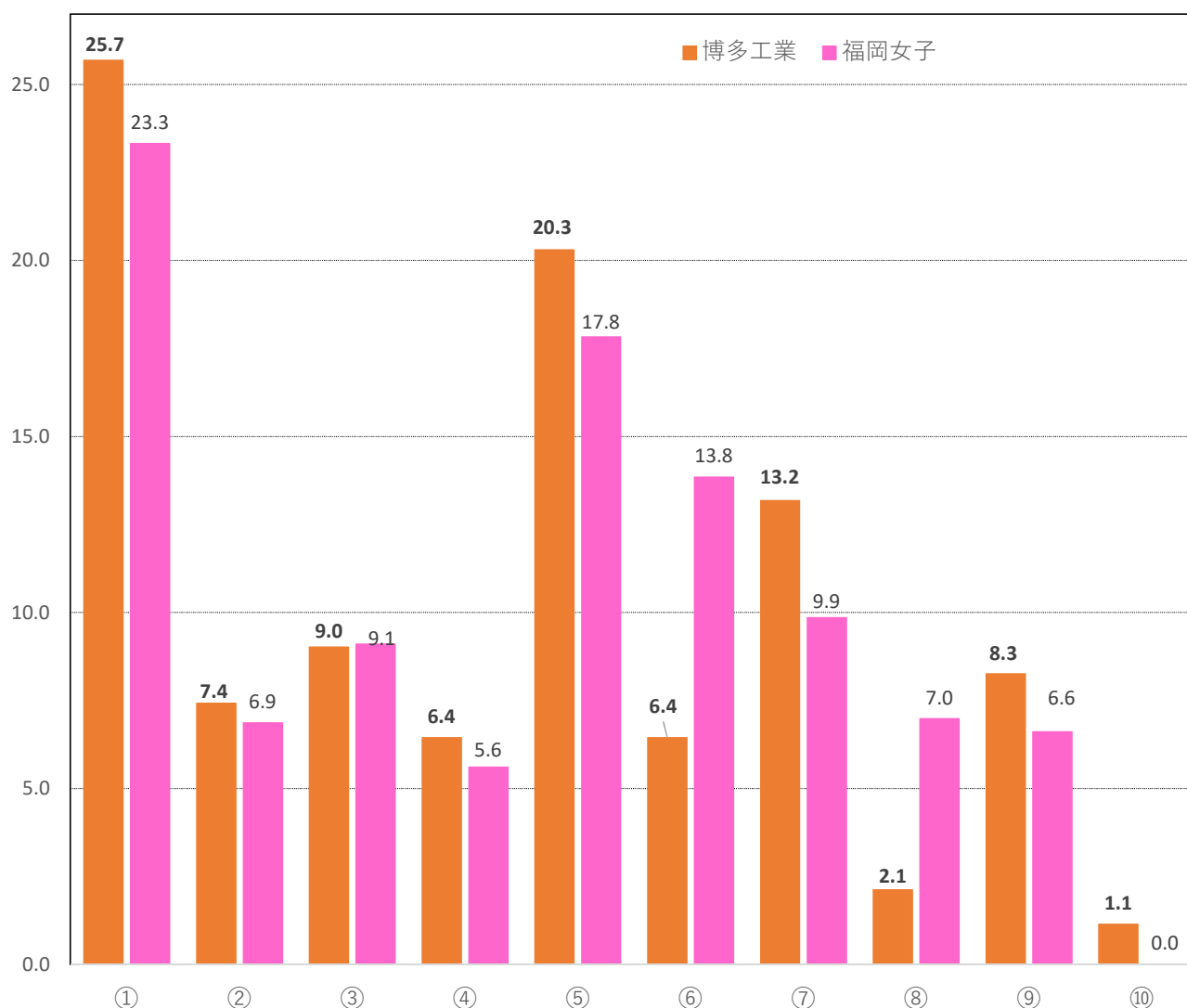
（福岡西陵）

- 大学のこと、試験の仕組みについて時間をかけて教えて欲しい。また、文理選択時に大学の講師や企業の方の講義があったら良い。
- 進路や仕事について知る機会があると、働くことのイメージが付きやすくなり、進路を選びやすくなると思う。
- グループ学習は人に教える学習過程を通して、自分の身に入っていない部分を可視化できるし、なにより楽しく積極的に学べるのが魅力的だと思う。もっと、グループ学習を増やしてほしい。

問6 専門学科において、もっと良くしていくためには何が必要だと思いますか。(3つまで選択)

単位: %

	博多工業	福岡女子	福翔	福岡西陵
① 学科の専門性に特化した実習の時間を増やす	25.7	23.3	—	—
② 他学科の専門的知識や技術も横断的に学ぶことができる	7.4	6.9	—	—
③ 入学後、別学科へ変更できる	9.0	9.1	—	—
④ 学年全体で学科を超えたクラス編成をする	6.4	5.6	—	—
⑤ 資格取得につながる学習や実習等を充実させる	20.3	17.8	—	—
⑥ 進学に対応できる学習の機会を増やす	6.4	13.8	—	—
⑦ 企業などから専門的な技術を学ぶことができる	13.2	9.9	—	—
⑧ 大学などから専門的な知識を学ぶことができる	2.1	7.0	—	—
⑨ 特にない	8.3	6.6	—	—
⑩ その他	1.1	0.0	—	—



調査結果の概要

- 博多工業高校、福岡女子高校ともに「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす」と回答した生徒の割合が高く、次いで「資格取得につながる学習や実習等を充実させる」となっている。
- 博多工業校では、「企業などから専門的な技術を学ぶことができる」と回答する生徒の割合も高い
- 福岡女子高校では、「進学に対応できる学習の機会を増やす」と回答する生徒の割合も高い。

生徒のコメント（一部）

（博多工業）

- 働いた時に役に立つような実務的な実習の時間を増やしてほしい。
- 自動車はさまざまな技術の結晶とも言えるので、特に配線やコンピュータ関係の学びはやっておいて損はないような気がする。
- 自分の学科以外の生徒とも関わりがあった方が刺激があり、学科だけで学べる内容には限りがある。専門的な知識を実際に働いている人から学べる場は貴重だと思う。
- 様々な資格をより多く取れるようになった方が良い。

（福岡女子）

- 実際に現場で活躍している人からの話は役に立つと思う。
- 学科の授業時間を増やすことで自分が学びたいことをさらに学ぶことができると思う。
- 家庭科の学習が多いので進学の勉強もしたいと思った。
- もっと検定に力を入れるべき。

問7 あなたの学校の良さについて教えてください。

生徒のコメント (一部)

(福翔)

- 部活動と勉強を両立できる。
- 総合学科なので普通科では学べないことを学ぶことができる。
- 学校全体の雰囲気が良い。
- 様々な進路を実現できる。それに伴い大人になって様々な情報網がある。
- 学校全体が明るく、生徒自身で考え行動できる場面が多い。
- 部活動がとても盛んで、環境や設備も整っており進路実績が良い。
- 将来が決まっていればその将来の夢に向かって重点的に勉強ができる。
- 総合学科で幅広い分野で学べる。
- 2年生から自分の進路にあった教科を学ぶことができる。株を使った会社を立ち上げることができる
- 豊富な選択科目で自分に合った科目を選べる

(博多工業)

- 部活が工業に関する部活もあり、工業の就職をしたい人や工業に興味がある人が授業以外でも学べる。
- 専門科目の色々な幅広い学習内容が学べる。
- 工業高校でしか学べない専門的なことを、実習を通して身につけることができる。
- 広くて設備が充実している。
- 就職にも進学にも対応できる。
- 就職率がとても良い。
- 資格取得に力を入れている所、施設設備がしっかりしている所。
- 専門学科だけではなく人として成長ができる。
- 博多工業高校でしか身につけることができないものがある。
- 工業系の学校なので社会の礼儀などを学べることから、社会に出た時に他の学校より少し有利である。

(福岡女子)

- 一人一人の個性が輝ける。検定などいろんなことに挑戦できる機会が多い。
- 講堂など施設、設備が充実している。
- 専門的な知識や社会に活かせる技術を細かく学べる。
- 制服が可愛いところ、公立だけど設備が整っているところ。
- 女子だけの学校である分思いっきり学校生活を楽しめている。
- 自分将来に役立つ学習ができる。
- 活気があり、和気あいあいとした雰囲気を持っている。
- それぞれ自分の興味、関心のあることを深く学べる。
- 一人一人が物事にきちんと向き合っていて協力し合えること、行事にも全力で取り組めるところ。勉強に集中して取り組める場所、環境がある。
- 実際に外国から来てくださった先生方がいてとてもわかりやすく授業を受けることができている。

(福岡西陵)

- 学校の雰囲気がいい。
- 挨拶などの礼儀に対する教育が熱心である。
- 行事など生徒の自主性が尊重される。
- イベントが充実している。
- タブレットをうまく活用した学習ができる。
- 大学進学に必要な知識を十分に得られる。
- 異文化交流が充実している。
- 総探が他校より優れている。
- ICTを使う場面が他校に比べて多いと思うところ、国際交流が盛んなところ。
- 総合的な探究の時間で問題、課題に取り組み考える力、コミュニケーション力が上がる。
- 進路サポートが手厚いところ。

主な調査結果の抜粋

（市立4校 共通の傾向）

- 高校選択時の情報収集先（問1）としては、「高校のオープンスクールや説明会」「保護者からの意見」が高い。また、高校選択時に重視すること（問2）は、「自分の学力・能力・適性」を重視したという生徒の回答割合が高い。
- 高校生として身につけたいこと（問4）としては、多くの生徒が「基本的な学力」と回答している。
- 授業の改善点・必要なこと（問5）は、市立4校とも「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できるようにする」が最も高く、次いで「理解が不十分な教科・科目の内容を、学び直すことができる機会を多くつくる」となっている。

（博多工業）

- 高校選択時の情報収集先として、「高校のホームページ（21.0%）」が最も多い。また、重視することとしては、「設置されている学科・コース・教育内容（21.5%）」が最も多くなっている。
- 卒業後の進路は、生徒の約60%が就職、24%が進学（大学：8%、短期大学：1%、専門学校：15%）を希望している。高校生として身につけたいことは、「就職に活かすことができる知識や技能（18.7%）」が最も高くなっている。
- 授業の改善点・必要なこととして、「ICT 機器（タブレット）等を積極的に活用した授業を充実させる（10.3%）」が全体で3番目に高く、他の学校にない傾向となっている。
- 専門学科における改善点・必要なこととして、「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす（25.7%）」、「資格取得につながる学習や実習等を充実させる（20.3%）」となっており、また、「企業などから専門的な技術を学ぶことができる（13.2%）」も全体の3番目に高い。

（福岡女子）

- 高校選択時に重視することとして、「設置されている学科・コース・教育内容（23.5%）」が最も多く、「制服（10.9%）」も3番目に高い。また、「女子高校（5.6%）」の回答割合は低い。
- 生徒の74%は、進学を希望（4年制大学：31%、短期大学：15%、専門学校：28%）しており、就職希望者の割合は10%となっている。高校生として身につ

けたいことは、「基本的な学力（15.3%）」「自分が興味のある分野の専門的な知識・技能（13.4%）」「進学に対応できる学力（12.0%）」が高い。

- 専門学科における改善点・必要なこととして、「学科の専門性に特化した実習の時間を増やす（23.3%）」、「資格取得につながる学習や実習等を充実させる（17.8%）」となっており、また、「進学に対応できる学習の機会を増やす（13.8%）」も全体の3番目に高い。

（福翔）

- 生徒の92%は、進学（4年制大学：81%、短期大学：2%、専門学校：9%）を希望している。就職希望者の割合は、3%となっている。高校生として身につけたいことは、「進学に対応できる学力（17.5%）」、「基本的な学力（15.0%）」の回答割合が高い。
- 授業の改善点・必要なこととして、「大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる（10.1%）」の割合が3番目に高くなっている。

（福岡西陵）

- 生徒の92%は、進学（4年制大学：83%、短期大学：3%、専門学校：6%）を希望している。就職希望者の割合は、1%となっている。高校生として身につけたいことは、「進学に対応できる学力（18.1%）」、「基本的な学力（17.2%）」、「自ら考え、判断し、問題を解決できる力（10.8%）」の回答割合が高い。
- 授業の改善点・必要なこととして、「大学などへの進学に対応した学力を高める授業を充実させる（9.4%）」の割合が3番目に高くなっている。

全国の女子校、共学化の状況

1. 男女別学校数について

(全国の状況)

○全国の高等学校数は令和4年（2022年）、4,727校（分校および生徒のいない学校は含まない）である。うち共学高校4,356校、男子のみの高校97校、女子のみの高校274校である。

- ・公立高校 3,403校・・・共学高校 3,360校
男子のみの高校 14校 女子のみの高校 29校
- ・私立高校 1,309校・・・共学高校 983校
男子のみの高校 82校 女子のみの高校 244校

【表1】【図1-1～3】

表1：全国の男女別学校数（高等学校）

区分	国立	公立	私立	計
計	15	3,403	1,309	4,727
(男女ともにいる学校)	13	3,360	983	4,356
(男のみの学校)	1	14	82	97
(女のみの学校)	1	29	244	274

(参考：文部科学省「学校基本調査」)

図1-1：全国の男女別学校数（高等学校）

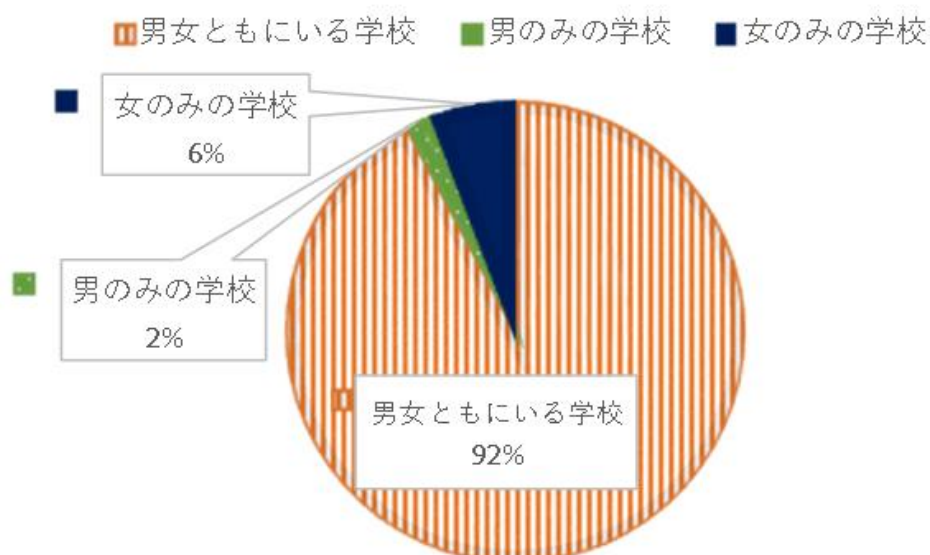


図 1 - 2 : 全国の公立高校の男女別学校数

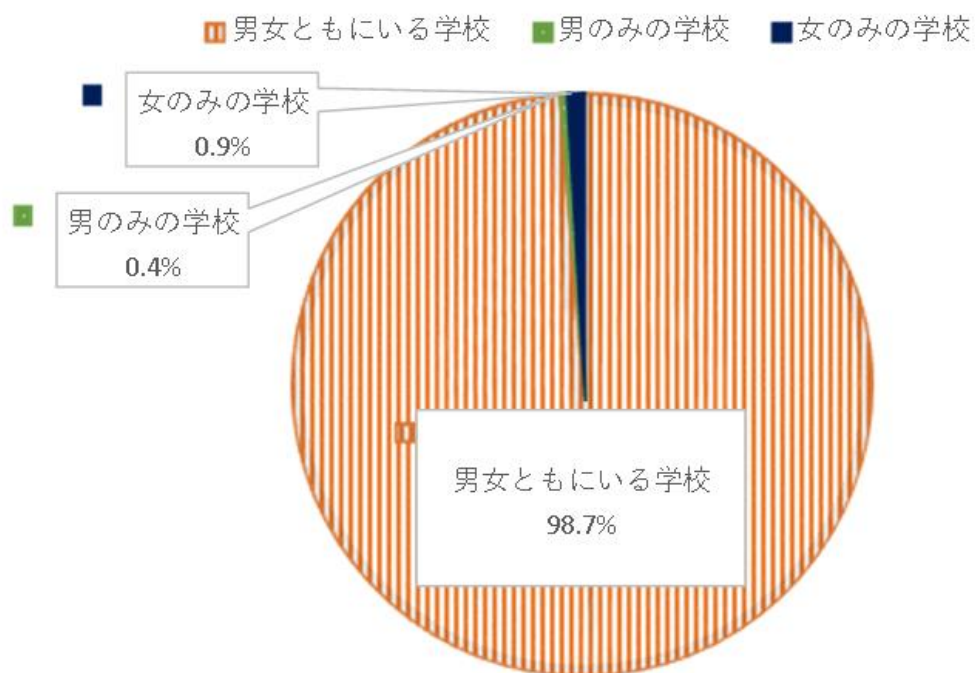
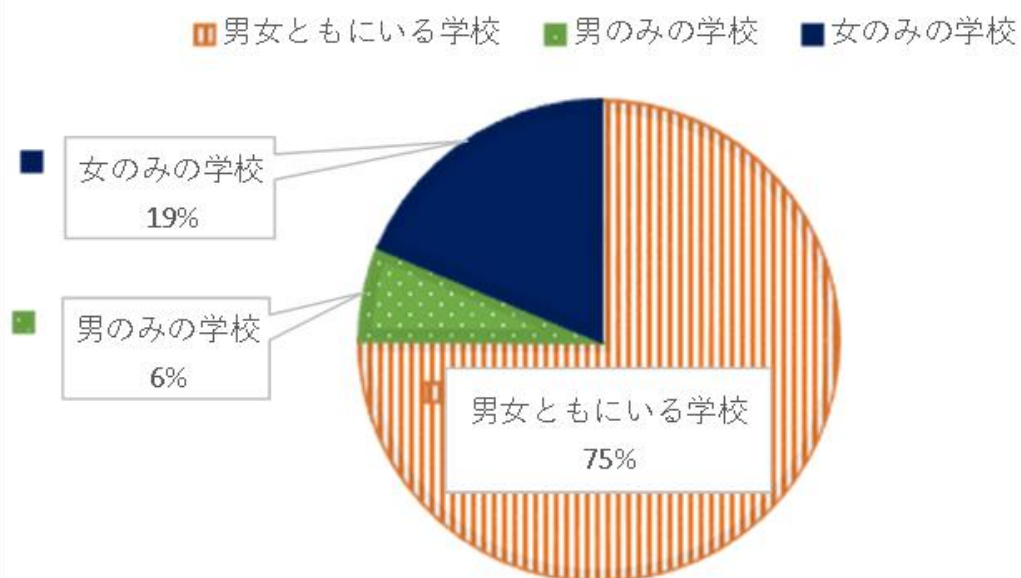


図 1 - 3 : 全国の私立高校の男女別学校数



(学校数の推移)

○高等学校数は減少しており、平成 25 年（2013 年）4,884 校（分校および生徒のいない学校は含まない）あったが、令和 4 年（2022 年）4,727 校と、157 校減っている。（参考：文部科学省「学校基本調査」）

○公立高校は、平成 25 年（2013 年）3,560 校（分校および生徒のいない学校は含まない）あったが、令和 4 年（2022 年）3,403 校と、157 校減っている。【表 2】

表 2：公立高校 学校数推移（本校のみ）

	2013 (H25)	2018 (H30)	2022 (R4)
計	3,560	3,467	3,403
(男のみの学校)	15	14	14
(女のみの学校)	39	32	29

（参考：文部科学省「学校基本調査」）

○私立高校は、平成 25 年（2013 年）1,309 校（分校および生徒のいない学校は含まない）あり、令和 4 年（2022 年）1,309 校と、同数である。【表 3】

表 3：私立高校 学校数推移（本校のみ）

	2013 (H25)	2018 (H30)	2022 (R4)
計	1,309	1,310	1,309
(男のみの学校)	109	92	82
(女のみの学校)	284	266	244

（参考：文部科学省「学校基本調査」）

2. 女子のみの公立高校について

(全国の状況)

○令和 5 年（2023 年）、全国の公立高校で女子のみの高校は 32 校（定時制は共学である学校や実質的に女子のみの学校も含む）である。（高校教育課調べ）

- ・北海道 0 東北 3 関東 2 2 中部 0 近畿 1 中国 1 四国 0 九州 5 【図 2】
- ・ 4 校は共学移行中・統廃合・閉校予定である。【表 4】

図2：エリア別 全国の女子のみの公立高校数

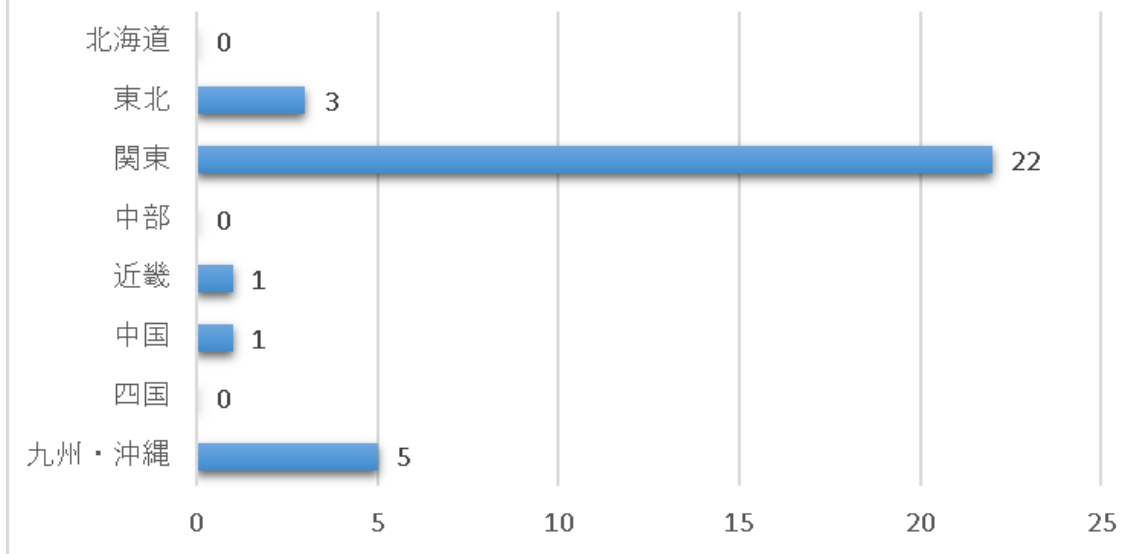


表4：女子のみの公立高校

	校名	学科	備考
1	岩手県立盛岡第二高等学校（共学だが全生徒女子）	普通	R4国公立大31名合格
2	石巻市立桜坂高等学校	普通	宮城県石巻市立・H27開校（石巻市立女子高校・石巻市立女子商業高校統合）
3	山形県立山形西高等学校（共学だが全生徒女子）	普通	県指定進学指導重点校・単位制高校・R4国公立大116名合格
4	栃木県立宇都宮女子高等学校	普通	R4国公立大126名合格（現役東大1名含）
5	栃木県立宇都宮中央女子高等学校 ※共学移行中	普通 総合家庭	R4より宇都宮中央高校（共学）となる・R5は3年生のみ在籍中
6	栃木県立栃木女子高等学校	普通	R4国公立大71名合格
7	栃木県立真岡女子高等学校	普通	R4国公立大44名合格
8	栃木県立大田原女子高等学校	普通	R4国公立大55名合格
9	群馬県立前橋女子高等学校	普通	SSH指定（Ⅲ期目）・R4国公立大162名合格
10	群馬県立渋川女子高等学校	普通	R4国公立大90名合格
11	群馬県立高崎女子高等学校	普通	R4国公立大154名合格
12	群馬県立太田女子高等学校	普通	R4国公立大128名合格（現役東大1名含）
13	群馬県立沼田女子高等学校 ※R7より共学化	普通 英数	R7より沼田高校と統合し共学化予定
14	群馬県立館林女子高等学校	普通	R4国公立大13名合格
15	茨城県立水戸第二高等学校（共学だが全生徒女子）	普通	R5よりSSH指定（Ⅳ期目）・R4国公立大114名合格

16	茨城県立日立第二高等学校（共学だが全生徒女子）	普通	H29英語科募集停止・R4国公立大2名合格
17	埼玉県立浦和第一女子高等学校	普通	R5よりSSH指定・R4国公立大129名合格（現役東大5名含）・女性グローバルリーダー育成
18	埼玉県立川越女子高等学校	普通	SSH指定（Ⅳ期目）・R4国公立大128名合格
19	埼玉県立春日部女子高等学校	普通 外国語	R4国公立大22名合格
20	埼玉県立久喜高等学校（定時制は共学）	普通	総合力重視の女子高校
21	埼玉県立熊谷女子高等学校	普通	県指定大学進学指導拠点校・H24より5年間SSH指定・R4国公立大55名合格
22	埼玉県立鴻巣女子高等学校	普通 家政科学 保育	全国公立高校唯一の保育科設置校
23	埼玉県立松山女子高等学校	普通	R7創立100周年
24	千葉県立千葉女子高等学校	普通 家政	R4国公立大7名合格
25	千葉県立木更津東高等学校（定時制は共学）	普通 家政	R4国公立大1名合格
26	近畿 海南市立海南下津高等学校 ※R6、3月閉校予定	家政 食物	和歌山県海南市立・県内唯一の家庭科専門高校であったがR5年度末閉校・R5は3年生のみに籍中
27	中国 松江市立皆美が丘女子高等学校	普通 国際コミュニ ケーション	島根県松江市立・中・四国地方唯一の公立女子高校・ユネスコスクール認定
28	福岡市立福岡女子高等学校	普通 服飾デザイン 食物調理 保育福祉 生活情報 国際教養	
29	久留米市外三市町高等学校組合立三井中央高等学校 ※R8、3月閉校予定	総合学科	R5が3学年そろそろ最終年度
30	九州 鹿児島県立野田女子高等学校	生活文化 食物 衛生看護	R5 3学科合わせて55名入学・専攻科（衛生看護2年間）併設
31	鹿児島市立鹿児島女子高等学校	生活科学 商業 情報会計	約3～4割が就職・R4入試は全学科定員割れ（生活科学0.96、商業0.65、情報会計0.72）
32	鹿児島県鹿屋市立鹿屋女子高等学校	普通 情報ビジネス 生活科学	鹿児島県鹿屋市立・県内トップクラスのICT環境

（福岡市内の状況）

（高校教育課調べ）

○福岡市内の高校で女子のみの高校は8校である。

【公立高校】1校

- ・福岡市立福岡女子高等学校

【私立高校】7校

- ・博多女子高等学校
- ・福岡海星女子学院高等学校
- ・筑紫女学園高等学校
- ・精華女子高等学校
- ・福岡雙葉高等学校
- ・中村学園女子高等学校
- ・福岡女学院高等学校

3. 女子のみの公立高校が共学化した事例について

○平成3年（1991年）から令和4年（2022年）の間、女子のみの公立高校が共学化・統廃合・閉校した事例が100件以上あった。（高校教育課調べ）

○この中には、もともと男女共学であったものの、女子のみしか在籍していなかった学校が実質的に共学化した事例も含まれる。

【表5】【表6】（高校教育課調べ）

表5：都道府県別

都道府県	女子のみの公立高校が共学化した事例
北海道	2009年 釧路市立北海道釧路星園高等学校（女） 閉校
青森県	1993年 青森西高校 共学化 1995年 弘前中央高校 人文科へ男子入学 1997年 八戸東高校 普通科共学化
岩手県	1991年 花巻南高校 共学化 2004年 北上翔南高校 共学化
宮城県	2005年 角田女子高校と角田高校（男）→宮城県角田高校（共学）へ 2005年 築館女子高校と築館高校（男）→宮城県築館高校（共学）へ 2005年 鼎が浦高校（女）と気仙沼高校（男）→宮城県気仙沼高校（共学）へ 2005年 古川女子高校→宮城県古川黎明高校（共学の中高一貫校）へ 2005年 矢本高校→宮城県東松島高校（共学）へ 2006年 石巻女子高校→宮城県石巻好文館高校（共学）へ 2008年 第一女子高校→宮城県宮城第一高校（共学）へ 2009年 仙台女子商業高校と仙台商業高校（男）→仙台市立仙台商業高校（共学）へ 2010年 第二女子高校→宮城県仙台二華高校（共学の中高一貫校）へ 2010年 第三女子高校→宮城県仙台三桜高校（共学）へ 2010年 白石女子高校と白石高校（男）→宮城県白石高校（共学）へ 2010年 塩釜女子高校と塩釜高校→宮城県塩釜高校（共学）へ
秋田県	2007年 由利高校 共学化 2008年 秋田北高校 共学化 2008年 横手城南高校 共学化 2013年 能代北高校（女）と市立能代商業高校→能代松陽高校（共学）へ 2014年 角館南高校（女）と角館高校→角館高校（共学）へ 2016年 大館桂高校（女）と大館高校と大館工業高校→大館桂桜高校（共学）へ
山形県	1991年 酒田西高校 男子3名入学 共学化 2015年 鶴岡北高校 共学化
福島県	1995年 福島西女子高校→福島西高校（共学）へ 1995年 須賀川女子高校→須賀川桐陽高校（共学）へ 1997年 白川女子高校→白河旭高校（共学）へ 1998年 郡山女子高校→郡山東高校（共学）へ 2001年 安積女子高校→安積黎明高校（共学）へ 2001年 磐城女子高校→磐城桜が丘高校（共学）へ 2002年 会津女子高校→葵高校（共学）へ 2003年 福島女子高校→橘高校（共学）へ 2003年 相馬女子高校→相馬東高校（共学）へ
茨城県	1993年 下妻第二高校 男女共学推進指定校 1994年 土浦第二高校 共学化 1995年 水海道第二高校 共学化

	1995 年 下館第二高校 共学化
	1995 年 鉾田第二高校 共学化
栃木県	2006 年 小山城南高校 共学化
	2007 年 足利西高校（女）と足利商業高校→足利清風高校（共学）へ
	2008 年 烏山女子高校と烏山高校（男）→烏山高校（共学）へ
	2011 年 佐野女子高校→佐野東高校（共学）へ
	2022 年 宇都宮中央女子高校→宇都宮中央高校（共学）へ
	2022 年 足利女子高校と足利高校→足利高校（共学）へ
群馬県	1993 年 伊勢崎市立女子高校→伊勢崎市立伊勢崎高校（共学）へ
	1994 年 高崎市立女子高校→高崎市立高崎経済大学附属高校（共学）へ
	2005 年 伊勢崎女子高校→伊勢崎清明高校（共学）へ
	2005 年 藤岡女子高校と藤岡高校（男）→藤岡中央高校（共学）へ
	2005 年 境高校（女）と伊勢崎東高校（男）→伊勢崎高校（共学）へ
	2005 年 太田西女子高校→太田フレックス高校（共学）へ
	2007 年 前橋東商業高校（女）と前橋商業高校→前橋商業高校（共学）へ
	2018 年 吾妻高校（女）と中之条高校→吾妻中央高校（共学）へ
	2021 年 桐生女子高校と桐生高校→桐生高校（共学）へ
埼玉県	1997 年 川口市立川口女子高校→川口市立川口総合高校（共学）へ
	2003 年 常盤高校 共学化
	2005 年 行田進修館高校と行田工業高校と行田女子高校→進修館高校（共学）へ
	2008 年 熊谷市立女子高校 閉校
千葉県	2003 年 佐原女子高校→佐原白楊高校（共学）へ
	2004 年 松戸高校 共学化
	2004 年 茂原高校 共学化
	2004 年 大多喜女子高校→大多喜高校（共学）へ
	2004 年 若葉看護高校（女）→幕張総合高校（共学）へ
	2005 年 御宿高校（女）と勝浦高校→勝浦若潮高校（共学）へ
	2005 年 佐倉東高校 共学化
	2006 年 松尾高校 共学化
	2006 年 野田高校（女）と野田北高校→野田中央高校（共学）へ
	2007 年 銚子高校 共学化
新潟県	1995 年 六日町女子高校→八海高校（共学）へ
	1997 年 新潟中央高校 音楽科設置（男子受け入れ）
富山県	1997 年 高岡女子高校→高岡西高校（共学）へ
	2001 年 新川女子高校→新川みどり野高校（共学）へ
	2001 年 砺波女子高校→となみ野高校（共学）へ
	2002 年 富山女子高校→富山いずみ高校（共学）へ
石川県	1994 年 田鶴浜女子高校→田鶴浜高校（共学）へ
	1995 年 金沢女子高校→金沢伏見高校（共学）へ
	1996 年 小松市立女子高校→小松市立高校（共学）へ
長野県	2008 年 市立皐月高校→長野市立長野高校（共学）へ
岐阜県	1995 年 大垣女子高校→大垣桜高校（共学）へ
	1997 年 岐阜第一女子高校と岐阜西工業高校→岐阜総合学園高校（共学）へ
	2003 年 坂下女子高校→坂下高校（共学）へ
	2005 年 岐阜女子商業高校と各務原東高校→岐阜各務野高校（共学）へ
	2005 年 養老女子商業高校と大垣農業高校→大垣養老高校（共学）へ
静岡県	1997 年 掛川東高校 共学化
	1999 年 磐田北高校 共学化
	2000 年 藤枝西高校 共学化
	2004 年 三島北高校 共学化
	2005 年 清水西高校 共学化

	2005 年 静岡城北高校 共学化
	2005 年 浜松市立高校 共学化
愛知県	2007 年 豊田東高校 共学化
滋賀県	2006 年 守山市立守山女子高校→立命館守山中学校・高等学校へ（私学に移管共学化）
大阪府	2004 年 白菊高校 閉校
奈良県	2005 年 北和女子高校と田原本農業高校→磯城野高校（共学）へ
広島県	1998 年 広島県呉豊栄高校（呉市設立）→呉市立呉高校（共学）へ
山口県	1999 年 山口中央高校 共学化
	2003 年 長府高校 共学化
	2003 年 下関南高校 共学化
高知県	2005 年 高知丸の内高校 共学化
熊本県	2012 年 第一高校 実質的に共学化
大分県	2003 年 大分女子高校→大分西高校（共学）へ

表 6 : 年別

年	女子のみの公立高校が共学化した事例
1991(H3)	○岩手県立花巻南高校 共学化 ○山形県立酒田西高校 男子 3 名入学 共学化
1993(H5)	○青森県立青森西高校 共学化 ○茨城県立下妻第二高校 男女共学推進指定校 ○（群馬県）伊勢崎市立女子高校→伊勢崎市立伊勢崎高校（共学）へ
1994(H6)	○茨城県立土浦第二高校 共学化 ○（群馬県）高崎市立女子高校→高崎市立高崎経済大学附属高校（共学）へ ○石川県立田鶴浜女子高校→石川県立田鶴浜高校（共学）へ
1995(H7)	○青森県立弘前中央高校 人文科へ男子入学 ○福島県立福島西女子高校→福島県立福島西高校（共学）へ ○福島県立須賀川女子高校→福島県立須賀川桐陽高校（共学）へ ○茨城県立水海道第二高校 共学化 ○茨城県立下館第二高校 共学化 ○茨城県立鉾田第二高校 共学化 ○新潟県立六日町女子高校→新潟県立八海高校（共学）へ ○石川県立金沢女子高校→石川県立金沢伏見高校（共学）へ ○岐阜県立大垣女子高校→岐阜県立大垣桜高校（共学）へ
1996(H8)	○（石川県）小松市立女子高校→小松市立高校（共学）へ
1997(H9)	○青森県立八戸東高校 普通科共学化 ○福島県立白川女子高校→福島県立白河旭高校（共学）へ ○（埼玉県）川口市立川口女子高校→川口市立川口総合高校（共学）へ ○新潟県立新潟中央高校 音楽科設置（男子受け入れ） ○富山県立高岡女子高校→富山県立高岡西高校（共学）へ ○岐阜県立岐阜第一女子高校と岐阜県立岐阜西工業高校 →岐阜県立岐阜総合学園高校（共学）へ ○静岡県立掛川東高校 共学化
1998(H10)	○福島県立郡山女子高校→福島県立郡山東高校（共学）へ ○広島県呉豊栄高校（呉市設立）→呉市立呉高校（共学）へ
1999(H11)	○静岡県立磐田北高校 共学化 ○山口県立山口中央高校 共学化
2000(H12)	○静岡県立藤枝西高校 共学化
2001(H13)	○福島県立安積女子高校→福島県立安積黎明高校（共学）へ ○福島県立磐城女子高校→福島県立磐城桜が丘高校（共学）へ

	○富山県立新川女子高校→富山県立新川みどり野高校（共学）へ ○富山県立砺波女子高校→富山県立となみ野高校（共学）へ
2002(H14)	○福島県立会津女子高校→福島県立葵高校（共学）へ ○富山県立富山女子高校→富山県立富山いずみ高校（共学）へ
2003(H15)	○福島県立福島女子高校→福島県立橘高校（共学）へ ○福島県立相馬女子高校→福島県立相馬東高校（共学）へ ○埼玉県立常盤高校 共学化 ○千葉県立佐原女子高校→千葉県立佐原白楊高校（共学）へ ○岐阜県立坂下女子高校→岐阜県立坂下高校（共学）へ ○山口県立長府高校 共学化 ○山口県立下関南高校 共学化 ○大分県立大分女子高校→大分県立大分西高校（共学）へ
2004(H16)	○岩手県立北上翔南高校 共学化 ○千葉県立松戸高校 共学化 ○千葉県立茂原高校 共学化 ○千葉県立大多喜女子高校→千葉県立大多喜高校（共学）へ ○千葉県立若葉看護高校（女）→千葉県立幕張総合高校（共学）へ ○静岡県立三島北高校 共学化 ○大阪府立白菊高校 閉校
2005(H17)	○宮城県角田女子高校と宮城県角田高校（男）→宮城県角田高校（共学）へ ○宮城県築館女子高校と宮城県築館高校（男）→宮城県築館高校（共学）へ ○宮城県鼎が浦高校（女）と宮城県気仙沼高校（男）→宮城県気仙沼高校（共学）へ ○宮城県古川女子高校→宮城県古川黎明高校（共学の中高一貫校）へ ○宮城県矢本高校→宮城県東松島高校（共学）へ ○群馬県立伊勢崎女子高校→群馬県立伊勢崎清明高校（共学）へ ○群馬県立藤岡女子高校と群馬県立藤岡高校（男）→群馬県立藤岡中央高校（共学）へ ○群馬県立境高校（女）と群馬県立伊勢崎東高校（男） →群馬県立伊勢崎高校（共学）へ ○群馬県立太田西女子高校→群馬県立太田フレックス高校（共学）へ ○埼玉県立行田進修館高校と埼玉県立行田工業高校と埼玉県立行田女子高校 →埼玉県立進修館高校（共学）へ ○千葉県立御宿高校（女）と千葉県立勝浦高校→千葉県立勝浦若潮高校（共学）へ ○千葉県立佐倉東高校 共学化 ○岐阜県立岐阜女子商業高校と岐阜県立各務原東高校 →岐阜県立岐阜各務野高校（共学）へ ○岐阜県立養老女子商業高校と岐阜県立大垣農業高校 →岐阜県立大垣養老高校（共学）へ ○静岡県立清水西高校 共学化 ○静岡県立静岡城北高校 共学化 ○（静岡県）浜松市立高校 共学化 ○奈良県立北和女子高校と奈良県立田原本農業高校→奈良県立磯城野高校（共学）へ ○高知県立高知丸の内高校 共学化
2006(H18)	○宮城県石巻女子高校→宮城県石巻好文館高校（共学）へ ○栃木県立小山城南高校 共学化 ○千葉県立松尾高校 共学化 ○千葉県立野田高校（女）と千葉県立野田北高校→千葉県立野田中央高校（共学）へ ○（滋賀県）守山市立守山女子高校 →立命館守山中学校・高等学校へ（私学に移管共学化）
2007(H19)	○秋田県立由利高校 共学化 ○栃木県立足利西高校（女）と栃木県立足利商業高校 →栃木県立足利清風高校（共学）へ

	○群馬県立前橋東商業高校（女）と群馬県立前橋商業高校 →群馬県立前橋商業高校（共学）へ ○千葉県立銚子高校 共学化 ○愛知県立豊田東高校 共学化
2008(H20)	○宮城県第一女子高校→宮城県宮城第一高校（共学）へ ○秋田県立秋田北高校 共学化 ○秋田県立横手城南高校 共学化 ○栃木県立烏山女子高校と栃木県立烏山高校（男）→栃木県立烏山高校（共学）へ ○（埼玉県）熊谷市立女子高校 閉校 ○（長野県）長野市立皐月高校→長野市立長野高校（共学）へ
2009(H21)	○（北海道）釧路市立北海道釧路星園高等学校（女） 閉校 ○（宮城県）仙台市立仙台女子商業高校と仙台市立仙台商業高校（男） →仙台市立仙台商業高校（共学）へ
2010(H22)	○宮城県第二女子高校→宮城県仙台二華高校（共学の中高一貫校）へ ○宮城県第三女子高校→宮城県仙台三桜高校（共学）へ ○宮城県白石女子高校と宮城県白石高校（男）→宮城県白石高校（共学）へ ○宮城県塩釜女子高校と宮城県塩釜高校→宮城県塩釜高校（共学）へ
2011(H23)	○栃木県立佐野女子高校→栃木県立佐野東高校（共学）へ
2012(H24)	○熊本県立第一高校 実質的に共学化
2013(H25)	○秋田県立能代北高校（女）と能代市立能代商業高校 →秋田県立能代松陽高校（共学）へ
2014(H26)	○秋田県立角館南高校（女）と秋田県立角館高校→秋田県立角館高校（共学）へ
2015(H27)	○山形県立鶴岡北高校 共学化
2016(H28)	○秋田県立大館桂高校（女）と秋田県立大館高校と秋田県立大館工業高校 →秋田県立大館桂桜高校（共学）へ
2018(H30)	○群馬県立吾妻高校（女）と群馬県立中之条高校→群馬県立吾妻中央高校（共学）へ
2021(R3)	○群馬県立桐生女子高校と群馬県立桐生高校→群馬県立桐生高校（共学）へ
2022(R4)	○栃木県立宇都宮中央女子高校→栃木県立宇都宮中央高校（共学）へ ○栃木県立足利女子高校と栃木県立足利高校→栃木県立足利高校（共学）へ

社会に開かれた教育課程、3年間に限らない教育課程 (他都市の事例等)

〔R3.1.26 中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」抜粋〕

- ④産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）
- 職業教育を主とする学科を置く高等学校（以下「専門高校」という。）においては、技術革新・産業構造の変化、グローバル化等、社会の急激な変化に伴い、修得が期待される資質・能力も変わってきており、今後とも大きく変わることが考えられる中、地域の持続的な成長を支える最先端の職業人育成を担っていくには、加速度的な変化の最前線にある地域の産業界で直接的に学ぶことができるよう、産業界と高等学校と一体となった、社会に開かれた教育課程の推進が重要である。
 - 具体的には、これまでの企業等の外部講師の招へいやインターシップ等の連携から更に進化し、経済団体等の産業界を核として、地域の産官学の関係者が一体となり、将来の地域産業界の在り方を検討し、その検討の中で、専門高校段階での人材育成の在り方を整理し、それに基づく教育課程の開発・実践を行うことが必要である。
 - こうした最先端の職業教育を行う上では、企業と一体となった教育課程とともに、教師の資質・能力の向上と施設・設備の充実が絶えず図られなければならない。施設・設備の充実には、教育委員会等の学校の設置者による計画的な整備、そしてそれを支える国や地方公共団体における財政的措置の充実が重要である。
 - また、専門高校を卒業後に大学や専門学校等に進学する生徒も少なくないことから、高等教育機関等と連携し、先取り履修等の取組の推進も考えられる。また、地域の産業界、行政が一体となって考える地域の将来構想においては、専攻科制度の活用や高等専門学校への改編も視野に入れた、必ずしも3年間に限らない教育課程の開発・実施や、高等教育機関と連携した一貫した教育課程の開発・実施の検討も考えられる。

社会に開かれた教育課程（工科高校の状況）

愛知県

グローバル化、デジタル化の進展に伴う産業界のニーズの変化を踏まえ、2021年4月より県立工業高等学校に新たな学科・コースを創設し、募集単位を見直している。また、この工業高等学校の再編により、工業教育の内容が大きく進化することを機に、新たな時代にふさわしい学校名に改称している。

○校名変更 工業高等学校等14校を「工科高等学校」に改称

○学科改編

・新たな学科・コースの創設

産業界のニーズの変化を踏まえ、現在の学科を見直し、「理工科」を1校、「IT工学科」を4校、「環境科学科」を4校、「生活コース」を8校に新設し、「ロボット工学科」を1校から7校に拡大している。

・学科名の変更

「情報技術科」及び「情報システム科」を「情報デザイン科」、「建築科」を「建築デザイン科」、「土木科」を「都市工学科」に科名変更している。

○募集単位の見直し

・中学生の進路ニーズを踏まえ、入学後に専門学科を選択できるよう、募集単位を大括り化している。

東京都

Society5.0を支える工業高校の実現に向け「Society5.0を支える工業高校の実現に向けたNext Kogyo START Project」の取組を進めており、その一つとして、令和5年4月から「工業高等学校」15校を、先進的で魅力ある専門高校に相応しい名称である「工科高等学校」に変更している。工学と科学を融合し、東京の成長を支える工業高校における教育の充実を目指している。

○工業系学科等のアップデート

・技術革新やDXの推進などに向けて、工業系学科等を発展・充実

【具体的な施策】

・新しい学科等の設置 ・Tokyo P-TECHの更なる展開など

【新たな学科設置の例】

ロボティクスコース、IT環境科、都市防災技術科、食品サイエンス科

○企業等との連携推進や交流機会の創出

・新しい知識・技術等の導入や社会ニーズを踏まえた学習を実現するため、企業連携等を推進

○ 課題解決型学習（PBL）の推進

- ・生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索するなどにより、ものづくりのプロセスを学ぶPBLを全校で推進

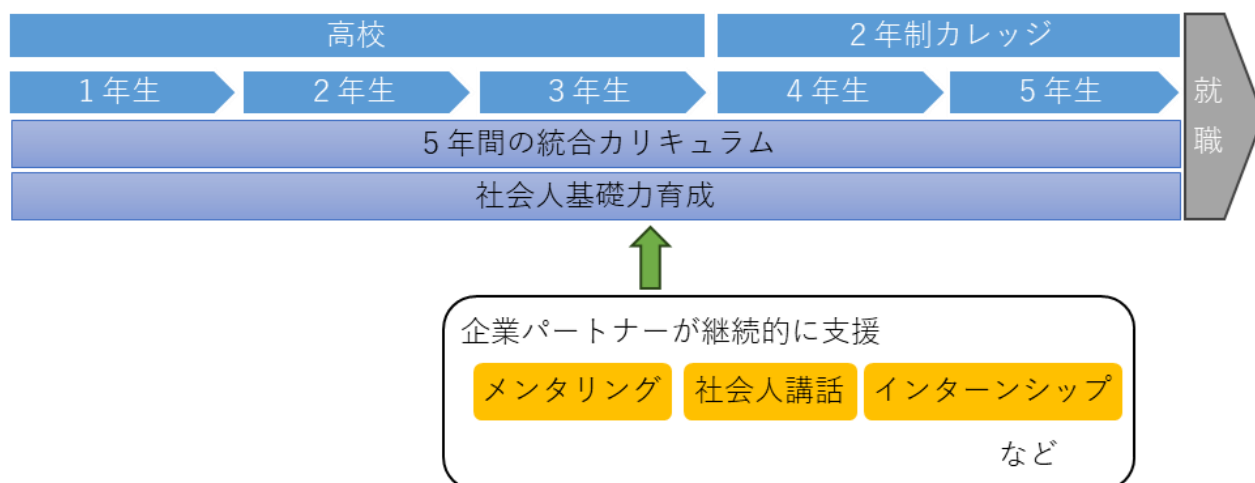
○ 工業IT科目の導入

- ・産業社会における先端技術との関わり方やプログラミングなどを実践的・体験的に学ぶ科目を全校で導入

P-TECH 事業（Pathways in Technology Early College High School）

<概要>

- ・教育行政、学校（高等学校、専門学校、短期大学）、企業がパートナーシップを結び、協働してIT人材育成に取り組む。
- ・高等学校教育3年間と上級学校教育2年間（短期大学校、専門学校など）を統合した5年間の教育プログラム。
- ・連携企業は、メンタリング、職場訪問、社会人基礎力講座やプロジェクト実習等を提供し、生徒の実践スキルの修得を支援している。



<P-TECH のイメージ図>

「Tokyo P-TECH」

ものづくり人材など、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進するため、専門高校における教育内容の改善・充実等を目指す。

〔東京都立町田工科高等学校〕

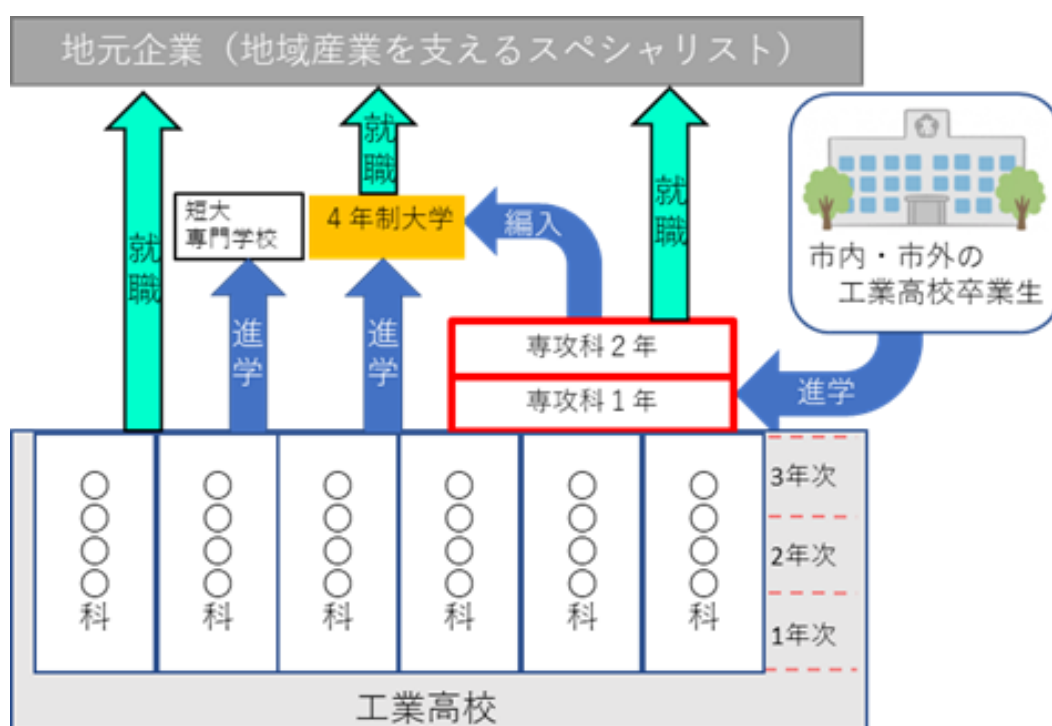
- ・令和3年度から都立町田工業高等学校が、日本工学院八王子専門学校と3社の企業と連携。
- ・IT関連企業や専門学校等の高等教育機関と連携し、IT人材育成のための新たな教育プログラムを開発・実施。

3年間に限らない教育課程

専攻科

<概要>

- ・高等学校の教育を基盤とし、2か年間の高度な工業教育を行い、豊かな人間性と実践力に富んだ職業人として、工業および工業関連産業の発展に貢献できる人材を育成する。
- ・平成28年度より専攻科から大学への編入が可能となった。
- ・全国9校（12学科）で工業系専攻科を設置している。
- ・専攻科は高校に設置されているため、学費も高校と同程度。



<専攻科のイメージ図>

<全国の専攻科>

○山梨県 「山梨県立甲府工業高等学校 専攻科（令和2年4月開設）」

- ・定員は、1学年20名で、機械系コース15名程度・電子系コース5名程度。
- ・工業系高校（県内6校）で機械系又は電気・電子・情報系に関する科目25単位以上取得して卒業した生徒が、さらに2年間高度な知識・技能を身に付けることができる教育課程。
- ・工業系高校3年、専攻科2年の合計5年間の工業教育を行うことで、県内企業で即戦力として活躍できる人材を育成。

- ・実習設備も最新鋭の設備を用意し、設備や工程の設計・生産性の検討等を担うことができる人材を育成。

○三重県 「三重県立四日市工業高等学校 専攻科（平成 30 年 4 月開設）」

- ・定員は、1 学年 20 名で、機械コース、電気コース各 10 名程度。
- ・企業、団体、行政、学校の連携による実践的教育。
- ・三重大学教員による専門的な授業。
- ・海外でも通用するための英会話授業や、海外・国内インターンシップ。
- ・各企業の経験を積んだ技術者・技能者による授業、年間 30 以上の企業・学校訪問。

○愛知県 「愛知県立愛知総合工科高等学校 専攻科（平成 28 年 4 月開設）」

- ・定員は、1 学年 40 名で、高度技術科 20 名（自動車・航空コース、電気制御コース各 10 名）、先端技術科 20 名（情報・IT コース、電子・ロボットコース各 10 名）。
- ・平成 29 年 4 月から公設民営化（指定管理法人：学校法人名城大学）を実施し、企業や大学等と連携。専攻科の教育課程は講義 60%、実習 40%で構成。
- ・生産現場の動向・ニーズに具体的かつ迅速に対応した教育。
- ・大学や企業からたくさんの経験豊富な指導者を招き、少人数で多様な教育を展開。
- ・工場見学、インターンシップおよびデュアルシステム型の企業実習を導入して、即戦力となる人材を育成。

高等専門学校

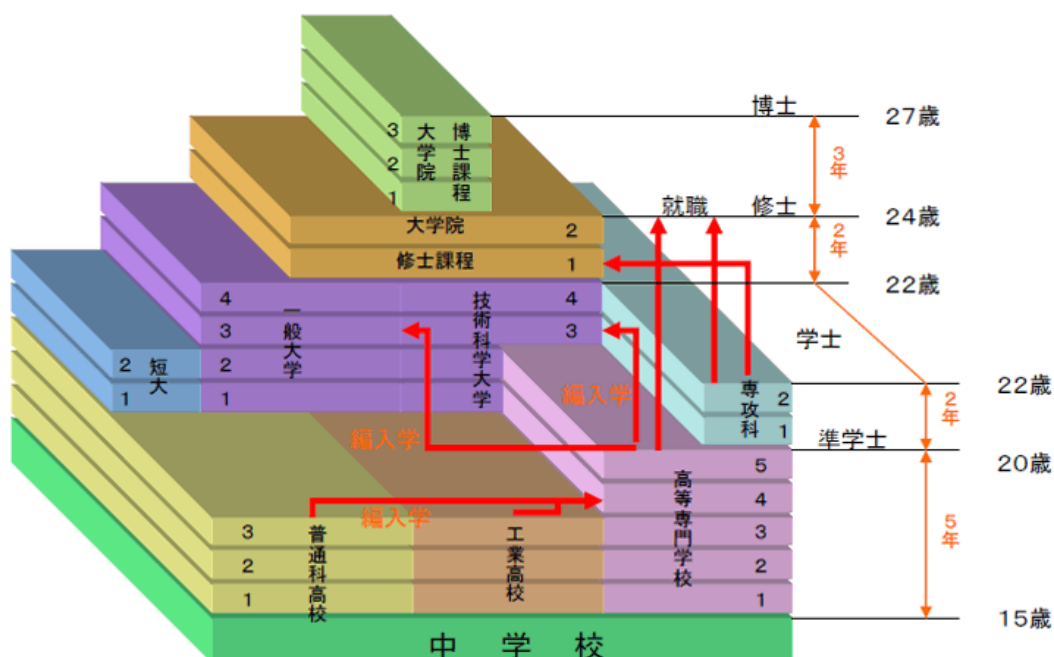
<概要>

- ・高等専門学校は実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関で、全国に国公立合わせて 57 校あり、全体で約 6 万人の学生が学んでいる。
- ・高等専門学校は、高等学校と同じく、中学校を卒業した方が入学することができる。入学後は 5 年一貫（商船学科は 5 年 6 ヶ月）で、一般科目と専門科目をバランスよく配置した教育課程により、技術者に必要な豊かな教養と体系的な専門知識を身につけることができる。

区分	学校数	入学定員	在学生数
計	57 校	10,465 人	56,754 人
国立	51 校	9,360 人	51,234 人
公立	3 校	720 人	3,780 人
私立	3 校	385 人	1,740 人

※文部科学省「設置者別学校数・入学定員・在学者数（令和 4 年度）」

高専と高校・大学との制度上の関係



※文部科学省「高等専門学校（高専）について」

<公立>

全国の公立高等専門学校を設置学科（コース）について（全国3校）

	機械・材料系	電気・電子系	情報系	その他
東京都立産業技術 高等専門学校	機械システム工学 生産システム工学	電気電子工学 電子情報工学	AI スマート工学 情報通信工学 ロボット工学	航空宇宙工学 医療福祉工学
大阪公立大学工業 高等専門学校	エネルギー機械	エレクトロニクス	知能情報	プロダクトデザイン
神戸市立工業 高等専門学校	機械工学科	電気工学科 電子工学科		応用化学科 都市工学科

○東京都立産業技術高等専門学校（昭和37年4月開設）

- ・ものづくり工学科の1学科のみで、定員は1学年320名。品川キャンパス、荒川キャンパス（各160名）において、社会の多様なニーズに応えるため特徴的な教育コースを設置。
- ・学校全体で国際化を推進し、ICTを積極的に活用。
- ・本科卒業後2年間の専攻科を設置（創造工学専攻、32名）。

○大阪公立大学工業高等専門学校（昭和38年4月開設）

- ・総合工学システム学科の1学科のみで、定員は1学年160名。
- ・ものづくりの街大阪において、深く専門の学芸を教授し、創造力と高い倫理観のある実践的技術者を養成。
- ・本科卒業後2年間の専攻科を設置（総合工学システム専攻、20名）。

○神戸市立工業高等専門学校（昭和38年4月開設）

- ・定員は、1学年240名で5学科（機械工学科80名、電気工学科、電子工学科、応用化学科、都市工学科は各40名）。
- ・深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力の育成。
- ・本科卒業後2年間の専攻科を設置（4専攻、24名。機械システム工学専攻、電気電子工学専攻は各8名、応用化学専攻、都市工学専攻は各4名）。

<私立>

○神山まると高等専門学校（令和5年4月開設）

- ・デザイン・エンジニアリング学科の1学科のみで、定員は1学年40名。
- ・「モノをつくる力で、コトを起こす」ために、テクノロジー×デザイン×起業家精神などの学びを提供。
- ・既存高専のモノづくりを徹底的に学び、即戦力となる学生を養成するカルチャーを引き継ぎ、「モノ」を形にする力（デザイン）、しっかりとつくり上げるテクノロジーの力を育成。

〔高等学校、専攻科、高等専門学校の比較〕

	高等学校	専攻科	高等専門学校
目的	中学校の課程を修了した生徒に高度な専門教育を施す。	高等学校を卒業した者等に対し、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する。	深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。
応募資格	中学校卒業	高校卒業等（工業科系卒に限定等）	中学校卒業 高等学校卒業（４年次への編入）
修業年数	３年	２年	５年 ２年（高校からの編入）
資格・学位	高等学校卒	高等学校卒	準学士
教育課程	学習指導要領によって教育内容が決められている。	専攻科における教育課程については別段の規制がなく、企業ニーズによって自由に編成することが可能（大学に編入学することができる専攻科の課程の基準あり）	① 一般科目と専門科目をくさび型に配当して、５年間一貫教育で効果的な専門教育を行っている。 ②卒業要件単位数は 167 単位以上 ③一般学級 40 人編成、学年制 ④専攻科の設置（卒業生の 1 ～ 2 割がそのまま専攻科へ進学）体系的に教育課程を編成するものとする。
進学	卒業後、大学、短期大学、専門学校へ進学可能。高専へは 4 年次へ編入可能。	卒業後、大学編入学が可能（平成 28 年度～）。	卒業後、専攻科への進学または大学編入学が可能。
1 学年定員	280 ～ 320 名 （福岡県内）	1 学科 10 ～ 20 名 （他県の公立専攻科）	160 ～ 200 名 （九州内の高専）
教員資格	・ 高校教員免許を有する者	・ 高校教員免許を有する者 ・ 企業・大学等で特定の分野に特に優れた知識、技術、技能及び経験を有する者（教員免許を付与）	・ 博士の学位を有するもの ・ 専門職学位を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者 ・ 大学又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴のある者など
特記事項		一定の基準を満たす教育内容とすることで、大学へ編入可能（H28. 4～）	

※高等学校、専攻科の欄は、三重県教育委員会「三重県立高等学校専攻科設置検討委員会」資料を参照

※高等専門学校の欄は、文部科学省「各学校種における設置基準等の比較（別表２）」を参照

※「高等学校」と「高等専門学校」は学校種別が違い、「高等専門学校」は文部科学省高等教育局所管